

建学の精神 「感恩」

人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し、今の自分がある。この偉大なほかに目に目覚め、深い感動と感謝の念から発する豊かな心と情熱をもって、人の幸せを願う行動するとき、われわれは社会に貢献することができる。

「ありがとう」に出会い気づき、感動・感謝の行動から、
また新しい「ありがとう」が生み出されていく。

夢に近づく(思いを実現する)

謹賀新年
美しく豊かな日本
偉大な文明

学生・生徒・園児、保護者そして教職員のみなさま、新年明けましておめでとうございます。みなさまの龍年2012年が、夢に近づ



理事長 江端 源治

く素晴らしい1年になります。すようお祈り申し上げます。昨年11月、所用で福岡に向う空路、小型プロペラ機で高度4,500mから瀬戸内、中国地方を眺望しました。遙か彼方の雲海、海原、山脈、川、池、平野の街並、高層ビル群、埋立地、橋、高速道路、鉄道、送電塔、風力発電、トンネル、空港、港、整然とした田畑など、私たち日本人が連綿と築きあげてきた豊かな文明の偉大さ、一人ひとりが実直に働きの幸せを願い常に努力を続け生み出してきた尊き成果、その大きな力を改めて実感しました。それらは高空から見ると、限らない平面、二次元の世

界に見えます。その瞬間、「津波」という自然の猛威が、いとも簡単に、掛け替えのない人とともに、それらの文明を情け容赦なく飲み込んで、破壊し流し去ってしまったあの凄惨、無情な光景が脳裡に浮かびました。運命というにはあまりにも非情な出来事です。

**力強い
復旧復興への信念、
希望の力に敬服**

昨年の3月11日、東日本大震災が起こりました。また9月4日には台風12号の想定をはるかに超える鉄砲水、洪水、土石流により甚大な被害がでました。被災

されたみなさまに心からお見舞い申し上げ、一日も早上げます。無残、悪夢、想像を絶する惨状に誰もが「自分でも何かできることはないだろうか」と思ったことでしょう。また、一瞬にしてすべてを失いながらも、早くも明日に向かって、「希望」を見失わず力強い前進の気力を奮い立たせている現地の被災者の姿に驚き、敬服の念とともに逆に励まされた：そんな不思議な感を持つた人も多かつたらうと思えます。“自分の何と恵まれ、些細なことでも悩み、これしきのことでも不満に思っているのだろうか”と。私はその一人です。

思いが現実のものに 女川高校(宮城県)と合作

「何かできないだろうか?」、本学園の高校生は「何か共同でつくりたい」と思い、それを実現しました。

被災地である宮城県女川高校の生徒たちと祈念のオブジェを合同で作り上げました。製作中の生徒たちの目は輝いていました。こんな夢中になれた文化祭があったらどうか。遠く離れていても感動、勇気、豊かな心を確かに共有できました。そんな彼女たち、そしてその思い、豊かな心の芽

を大切に、大きく育て現実のものにするお手伝いをした本校教職員を誇りに思います。“そんなものに到底無理:(困難・不安要素ばかりを並べ):”と一蹴されていたら、これは実現していませんでした。

**心に響く感性・優しさ、
素晴らしい能力…
最後までいっしょに
頑張ろう!**

昨夏の第5回高校生論文コンクールのテーマは「希望」。多くの高校生が東日本大震災のことを引用していました。そして絶望、も

う二度と立ち直れないと、打ちのめされ奈落の底にあっても、励まされ支え合いながら一筋の光を見つけて出し、明るい希望が人の心を奮い立たせ、前進のエネルギーを生み出していると述べていました。最優秀作品では、死に至る不治の病にかかった祖母をどう励まし、どう希望を伝えればいいのか?を語っていました。

大好きな祖母に対して「すぐに良くなる」などと軽々しく言えない、作者が見つけた言葉は「最後まで一緒に頑張ろう」というものでした。そして短い余命であっても「共に在る」人がいて、そこに「愛」があるならば希望を持つことは可能であると述べていました。私は胸が熱くなりました。

本来、若者・人は心に響く素晴らしい感性・優しさ、能力を持っています。それをいつも忘れず見失わず、大切に大きく育てていってほしいと願います。この論文コンクールが、多くの高校生たちの人格の向上、豊

かな心の成長のきっかけになってくれればと願っています。



錦秋 (短大1号館)

60社目で到達 挫けず、自分を見失わず

昨秋、一人の本学4年生が「昨日、やっと就職が内定しました。60社目でやっとです。」と笑顔でたいした苦労がなかったかのように話してくれました。就職難のいま60社は特別に多い数ではありません、されど60社です…。つらく悲しく情けなくなる(自分なんか…)ときがあったことと思

います。そんなとき親や仲間たち、そして教職員に支えられ励まされながら、挫けず自分を見失わず見事に、自分を必要とする会社にたどり着いた彼女に敬意を表します。よく頑張りました。

夢に近づいて 卒業を

もうすぐ卒業式です。一歩でも夢に近づいて元気に卒業してほしいと心から願っています。卒業生たちは、学園教職員の誇り、宝物です。



錦秋 (学園2号館)

学園創立70周年記念行事の報告



I

教職員による

「二上山登山」を行いました

70周年記念行事実行委員会

二上山登山実施委員

岡本 秀美 (幼稚園)

学園創立70周年記念行事として、10月30日(日)に学園教職員及びご家族併せて78名で二上山登山が行われました。

はじめに江端理事長より学園歌にゆかりのある二上山のお話があり、しつかり準備運動、記念撮影を終え、いざ出発!!と気合を入れた途端、雨がぼつりぼつりと・・・

登山ルートは万葉の森から雌岳、雄岳への往復ルートで、各

自、傘や雨合羽を準備して、登り始めました。

二上山は、小学生の遠足(校外学習)などで登ると聞いておりました。やはり「山は山!」

最初は緩やかな登りで、行き交う人たちと挨拶や会話を交わしながら順調な出足でした。ところが中盤からは急な傾斜の連続で、体温も息も上昇傾向。雨合羽を着用していたことで、益々体温は上昇し息も荒く次の一歩

がなかなか前に進みません。そんな中でも平然として登る人や自分のペースを考慮しながら登る人、また一方で息も絶え絶えになりながらも根性で登る人など、山頂を目指し一步一步踏み出す様子は、いくつもの人生模様を垣間見たように思えました。頂上に着いて、雨が激しくなり、残念ながら楽しみにしていた頂上でのお弁当を食べることや自然の山並に囲まれた雄大な眺望を観ることは、できませんでしたが、辛苦を共にした皆様と学園歌を斉唱できたことが、何よりも思い出になった事と感じております。

下山は登りより楽だろうと思っただけのもの、油断はできません。ぬれた斜面に足を取られ、転んだ方が何人かおられたと聞きました。私も膝を笑わせながら、労わりながらの下山でしたが、そんなハプニングも今では笑い話になっているので

はないでしょうか。

このような機会がなければ、登ることもなかったかもしれません。また、普段なかなかお会いできない方やお話のできなかった方とも、触れ合うことができました。これからも皆様と共に様々な活動の場で交流を深め、これからの学園の発展に繋がられることを、深く願っております。

最後に、実行委員会のメンバーとして、この計画に際して不行届な点も多々あったかと思いますが、皆様にご参加、ご協力頂きありがとうございます。なお、平成24年春には、学園の学生・生徒及び教職員対象の二上山登山が計画されており、ですので、より多くの皆様のご参加をお待ちしております。



II 学園創立七十周年フォトコンテスト中間報告

フォトコンテスト実行委員会

「撮ろう学園！フォトコン70th 玉手山学園の春・夏・秋・冬」を合言葉に学園創立七十周年記念行事の一環としてこの四月からスタートしたフォトコンテストは、第一期募集期間として6月末まで、第二期募集期間として9月末までに応募していただいた作品を対象に審査、入選作品が決定しました。第一期では応募総数三十八点に対して

十五点が、第二期では応募作品三十九点に対して十二点が入選作品として選ばれましたが、法人本部を含むすべての所属から入選作品が選ばれており、少しずつではありますがコンテストの存在が認知されつつあるようです。

応募作品の特徴としては、投稿規程では特に撮影時期を要件とはしていないものの、やはり

季節を感じさせられる作品が多く見受けられました。第一期には「春」を象徴する桜をモチーフとした作品が、第二期では紫陽花や枇杷、蟬など緑豊かで自然溢れる学園を切り取った作品が目立ちました。

第一期、第二期は以上の結果となりましたが、引き続き2月末までフォトコンテストは続きます。応募作品の中には放課後の教室などごくありふれた日常の一コマの中に心を打たれる写真も数多く見受けられます。ぜひ気軽な気持ちでコンテストに応募していただきますようお願いいたします。

III 玉手山学園創立70周年記念『3世代表彰』募集中

玉手山学園は、平成24年(2012年)に学園創立70周年を迎えます。この節目の年にあわせて「創立70周年記念3世代表彰」を実施すること致しました。この表彰は、親子3代(直系の親・子・孫の3世代)にわた

るを贈り、感謝の意を表するものです。

◆対象 親子3代(直系の親・子・孫)が現在の学校法人玉手山学園またはその前身である財団法人山田学園が設置する学校園のいずれかに入学し卒業された方
◆申請方法 3世代表彰の対象

となる方は、法人本部事務室に申請用紙を用意しておりますのでご記入のうえ、ご提出くださるようお願い致します。

なお、申請の受付は平成24年1月31日までとさせていただきます。

◆表彰 感謝状の授与及び記念品贈呈

※この件に関する問い合わせ先
学校法人玉手山学園
法人本部 財務部

TEL: 072(978)6661
FAX: 072(977)8587

IV 学園内の通路・広場・通用門等の名称・愛称募集中

応募要領は左のパンフレットをご覧ください

70 学園創立70周年記念イベント

学園内の通路、広場、通用門ほかの
名称・愛称
募集 します!!

学園創立70周年の記念行事の一環として、学園内の主要な通路、広場、通用門ほかの名称・愛称を広く募集いたします。学園で過ごされる全ての学生・生徒・園児・教職員の皆様に、親しみを持ってもらい、学園の主要なキーポイントとしてわかりやすい名称・愛称を付けていただきたいと思います。是非、奮ってご応募ください。

学園トピックス

故鈴木子郎前理事長を偲ぶ会

法人本部経営企画室



江端理事長による追悼の辞

平成23年10月12日(水)
マークスWホテル奈良にて、「故鈴木子郎前理事長を偲ぶ会」が開催されました。

当日は、故鈴木前理事長を偲び、本学園より61名が参席(参席総数165名)いたしました。

故鈴木前理事長は、昭和51年9月に学校法人玉手山学園に入職され、昭和58年には法人本部長・常務理事に就任、平成5年には関西女子短期大学長、平成12年には理事長に就任されました。前職である三和銀行での経験を活かし、学園の管理運営・事務部門の基本体

制づくりに民間企業の組織運営の長所を反映させるなど、平成21年の退任まで33年間の長きにわたり、職員及び業務の質向上に取り組みられました。

学園は今春創立70周年を迎えます。70年のうち33年

間を学園発展のためご尽力された故鈴木前理事長に心から敬意を表します。どうぞ安らかにお眠りください。

資生堂ビューティーアップセミナー実施

学生支援センター 岡田伸次

平成23年7月29日(金)、10月12日(水)の両日にかけて、大学生と短大生に対して化粧品会社である資生堂による「就活に役立つビューティーアップセミナー」を実施いたしました。

2日間の参加者総数は127名で、短大においては一部、教員の参加も頂き就職時の化粧の仕方やマナーについて指導が行われました。

就職においては履歴書やエントリーシートの書き方も大切ですが、やはり面接時の「見た目」も非常に大切

な要素であることには違いありません。

当日は和気あいあいと、皆でお互いの化粧を確認しながら熱心に自分の化粧をしていました。(ひよつとすると授業より熱心であったかも？笑い)

学生支援センターとしては、外部に依頼してビューティーアップセミナーを実施するのは初めての試みでありましたが、たいへん好評であったことから今後も継続して実施したいと考えています。

メンタルヘルス研修会開催

学園安全衛生委員会

去る8月29日に学園安全衛生委員会主催の「メンタルヘルス研修会」を実施しました。

テーマは、昨年の「セルフケア」につき、本年は「ラインケア」についてEAP研究所副所長の長見まき子先生（健康福祉学部准教授）にお話いただきました。上司には部下がストレス

をためていないか、また、そのストレスに対処しているかを見極め、心身ともに健康で仕事が円滑になされるようマネジメントすること、部下の心身の健康に配慮することが求められています。そこで、今回は部下の心の健康づくり対策として行う「ラインによるケア」の重要性を職員の管理

職の皆さんに学習していただきました。

メンタルヘルス対策のキーパーソンは管理職員にあります。職場における課題を把握し、そこにあるストレス要因の軽減を図っていくことが管理職員にとっての重要な役割であることは勿論ですが、ラインによるケアを適切に行うためにはメンタルヘルス不調者に早く気づくこと、変化に気づいたら声をかけること、話を（悩み）をキチンと聴いてあげること、プライバシーに配慮すること等々、管理者が日常的に留意すべきこと、そしてその対応方法について、具体事例を取り上げわかりやすく説明していただきました。

39名の参加者は熱心に受講し、非常に有意義で満足度の高い研修会となりました。



大勢の職員が熱心に受講しました

永井准教授人命救助で表彰

法人本部総務部

関西福祉科学大学の永井准教授は去る9月14日の夕方、河内国分駅で電車を待っている際、向かい側のホームから男性が転落したのを見て、電車が接近しているにもかかわらず線路にとびおり、身を挺して男性を救助しました。この善行に対し、9月26日、柏原警察署にて八嶋署長から感謝状が贈られました。

永井先生に「電車が接近しているのに怖くはなかったですか」とお聞きしたところ「電車が接近しているのはわかっていましたが、あれこれ考える前に体が先に動いていました。男性をホームにひきあげて、その後電車がとまったのがわかりほっとしました。」とのこに学園一同大拍手です。



柏原警察署での表彰式

学园内食堂のヘルシーメニュー週間と 管理栄養士をめざす学生による 食事診断を実施

福祉栄養学科

本学園では職員、食堂業者3社、福祉栄養学科教員・学生で構成する「食堂改善委員会」を立ち上げ、「魅力ある学生食堂」をめざした取り組みを行っています。

す。栄養バランスが良ければ診断結果の“こま”はきれいに回転しますが、参加者の中には主菜のとりすぎ、

副菜の不足、菓子・嗜好飲料のとりすぎなどで“こま”がうまく回らず倒れてしまう人もいました。指導

にあたった学生は、「コミュニケーション力がもっと必要」「人に伝えることの難しさを知った」「管理栄養士をめざす上でとてもいい経験になった」など、人に指導する立場として試行錯誤しながらも、日頃の学びの成果を実践する貴重な機会となりました。

をもっと積極的にとってもらおうと学生考案のレシピを募集する「たっぷりVeggeを食べる料理コンテスト」や、コンテストの入賞作品を全学学生に普及するための料理教室などを実施しています。同コンテストは来年度初めに表彰およびレシピ集の発行、また学内食堂での販売化を予定しています。

平成23年秋には各食堂がヘルシーメニュー週間を実施し、野菜たっぷりヘルシーなメニューを提供いたしました。またこの期間に福祉栄養学科学生による食事診断を実施し、同世代の仲間に向け食の大切さをアピールするという学内初の企画を行いました。昼休みに食堂へ足を運ぶ学生に声をかけ、たくさんのフードモデルの中から自分の食べたい1食分を選択してトレイにのせてもらおうとパソコンで瞬時に栄養バランスが診断できるといシステムで



1食分として「お好み焼き、鶏の唐揚げ、キムチ、ビール」を選んだ学生。



栄養バランスが悪く、「こま」が倒れてしまいました。



診断結果をもとに、福祉栄養学科学生が具体的な改善点をアドバイスしました。

第9回大学公開講座開催

保健医療学部
実習センター長 中俣恵美



大勢の柏原市民の方が参加されました



総合体育館で実習を行いました

第9回大学公開講座を保健医療学部リハビリテーション学科の新設お披露目を兼ね10月8・15・29日に開催しました。メインテーマを「ウォーキングの効果と方法ーあなたの知らないウォン・ホントー」とし、第1講は野村卓生教授による「ウォーキングで健康になるろう」をテーマに、ウォー

キングと運動負荷の関係に着目した正しいウォーキングの方法や日常生活のなかで運動やウォーキングを取り入れ継続させる方法の提示がされました。第2講は重森健太教授による「ウォーキングで老化をストップ」をテーマに、ウォーキングと脳機能には密接な関係があることが紹介され、各脳機能別のウォーキングによる脳トレ法が提示されました。また、第3講では、新たな取り組みとして学園総合体育館にて体験

実習型講座を中俣恵美講師他、リハビリテーション学科の教員で行いました。ここでは第1・2講で提示されたウォーキング方法を具体的に指導するとともに、学生歌「恵みの美空」による体操を提案しました。

いずれの講座もたくさんの方の参加いただき、活発な質疑と高い満足度をいただくことができ、市民の方々の健康に対する関心の高さを再認識する機会となりました。



勾玉橋正門

■玉手山学園広報

発行 法人本部

No.68平成24年1月5日発行

昭和63年4月12日No.1発行

学校法人 玉手山学園

関西福祉科学大学

関西女子短期大学

関西福祉科学大学高等学校

関西女子短期大学付属幼稚園

関西医療技術専門学校

〒582-0026大阪府柏原市旭ヶ丘三丁目十番号

電話(07)9781-6661番

FAX(07)9781-8587番

http://www.houjin.tuks-hagf-u.ac.jp